

# 新寮概算請求は上決定する!!

桐花寮全寮  
委員会事務局

5月二十日、体育学部に於て、文学部を欠いた評議会で

局 436.24

新寮概算請求は5月22日をしめ切り、調査費計上は6月20日に……一これは果して何を意味するのか!!

教育大に学ぶ全ての学友の皆さん

昨日、去る20日、体育学部において評議会が開かれ、文部省退席のまゝ、理学部、教育学部、農学部、体育学部、の斗学部の評議員によつて、筑波移転の調査に計上」を決定したことと明瞭になりました。

この決定は、事前の教授会の審議を欠いたものであり、しかも、昨年の「計上」決定と同様に、文学部を除いて斗学部で行なわれるとこゝう、5学部一致の原則を破り、ひいては教育大の民主主義をもみにじるにひとしいものです。また、そのやにもこの決定にはさきほな問題を見出せることができます。まず、調査に計上が、M.P.Cマスター・プラン委員会の（）の提案によって行なわれたといふ事実です。乙酉においてなされた評議会の選舉において、三輪元學長一派が大きく後退し、評議会が移転推進を強行する団体としての偽きがえきなり」とになつて、ためにそれに代るものとして學長の諸向井闘と云う名目をデッキあげられたものが、M.P.C委員会ですが、これも評議会に対してあのような提案をしたといふことは、M.P.C委員会結成の狙いを露骨にあらわして未だものと言えます。さらにM.P.C委員会は、民主的な教授や移転に關して慎重を期すよう主張する教授に対して、調査に計上は昨年の教授会を決定している、という形で、この向の状況の変化を無視して、形式的で民主主義を盾に、決定を押しつけたことも、ほゞ明らかになつてします。

私たちは以上のように、いろいろな裏を、學内の民主を破るよう決定は認めたこととぞきません。けれども、私たちが許せないのはそればかりではありません。

学友の皆さん

私たちはこの5月以来、多くの学友の皆さんとの切に願う新寮建設、希望者全員の入れる民主的新寮建設、実現のために、全學を擧げて斗りを進めて来ました。新寮要求の署名を集め、クラス討論をつみみさせね、6年全員学生統一行動には350名の学友が、新寮をはじめ、さきほな学内課題と政治課題をしつかり結びつけて参加し、文部省に對して教育大単独デモを行ひ、また學長選挙では、これら全ての要求を掲げて、私たちの要求を実現してくれる民主的な學長を實現するために斗りました。

けれども私たちのこのような真剣な斗りにも関わらず、「概算請求は5月22日をしめ切りてしまつた」という寄宿舎委員会の報告があり、私たちの斗りに一定の困難な条件が加わりました。

しかし、しかし学友の皆さん

20日の決定は何を意味するのでしょうか。これは私たちが主張していたとおり、概算請求のしめ切りを單なる事ム手綱上の問題にすぎなかつてことを示してゐるものに他なりません。たくさんの学友が、教育大の民主主義をもみにじるような形で行なわれた調査に計上はやめるといふのです。私たちはこの事実に顧みて、新寮建設のための概算請求を引き受け、とても、政府文部省の言いなりになつてしまつてゐるものにせなりません。たくさんの学友が、調査に計上はやめることをできます。要る実現を阻もうとしているのは、寄宿舎委員会でも、教授会ともありません、それは、貧困を反動的な文教政策を教育大に賣つこうとする学生部であり、事ム局であり事ム局長であり、それに追従する三輪元學長反動一派です。寄宿舎委員会からの概算請求のしめ切り事ム局長であり、それに関連する三輪元學長反動一派です。寄宿舎委員会に見えてくることは、明らかです。今年はためだと言つてゐる寄委會に責任があり、今後、私たちと共に概算請求をめざとる立場に立つようぬきぬけて行なねばなりません、私たちは、寄宿舎委員会、一度向ひ会わせただけで、私たちの要求を実現し、教育大の民主的な發展をめざすための斗りを全學を擧げて斗つて行なねばなりません。

全學友の皆さん

寮で、サークルで、クラスで、討論を大きく盛り上げかしめう。學生運動は、寮運動は共して一部の人たちにちぢれ特殊な活動ではありません。私たちの生活を守り、廃学条件を守り、大學の自治を、寮の自治を守るのを、學生運動であり、寮運動であり、一人ひとりの学友が、スクラムに加わり、教育大の民主的発展のために、新寮建設実現のために斗つて行くことを現在非常に大切にしています。

教育大に学ぶ四千学友の皆さん、团结して頑張ろう!!